

[成果情報名] 「つゆひかり」の新芽硬化特性

[要 約] 「つゆひかり」は「やぶきた」と比較して、開葉速度は速いが、下位葉の硬化度は低く、硬化の進行が緩慢である。また、収量増に伴う全窒素含有率の低下速度も緩やかである。

[キーワード] つゆひかり、開葉速度、硬化度、全窒素含有率

[担当] 静岡農林技研・茶業研セ・栽培育種科

[連絡先] 電話 0548-27-2311、電子メール ES-kenkyu@pref.shizuoka.jp

[区分] 茶業

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

静岡県育成の「つゆひかり」は鮮やかな水色と良好な香味に特徴のあるやや早生品種であり、近年栽培面積が増加している。「つゆひかり」の特徴を活かした栽培方法を確立するため、新芽の生育および硬化特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 「つゆひかり」は「やぶきた」よりも開葉速度が速く、「やぶきた」は約5日で1枚開葉するのに対し、「つゆひかり」は約4日で1枚開葉する（図1）。
- 2 「つゆひかり」の新芽は上位葉と下位葉の硬化度（打抜き抵抗値）の差が小さい。また、「つゆひかり」の3～5葉期では、同じ葉期の「やぶきた」よりも下位葉の硬化度が低く、硬化の進行程度も緩慢である（図2）。
- 3 「つゆひかり」の新芽は、収量（摘芽重）の増加や生育ステージの進展に伴う全窒素含有率の低下速度が「やぶきた」よりも遅い（図3）。
- 4 以上のことから、「つゆひかり」は5葉期までに摘採を行えば、同等の生育ステージで摘採した「やぶきた」と比較して、高品質な茶の生産が可能である。

[成果の活用面・留意点]

- 1 両品種とも中切り更新（2008年）から3～4年経過後のデータである。
- 2 「つゆひかり」は開葉速度が速いので摘採時期が遅れないように留意する必要がある。

[具体的データ]

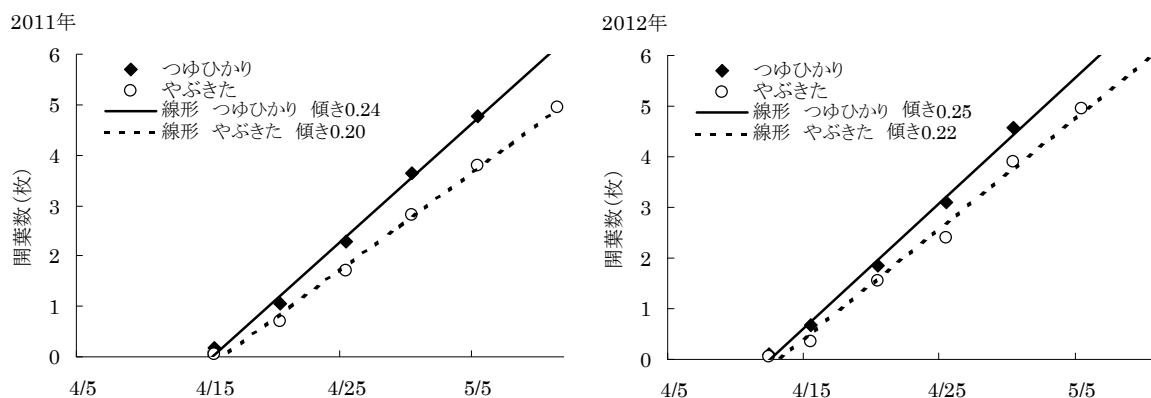


図1 「つゆひかり」と「やぶきた」の一番茶新芽の開葉速度の違い（2011年、2012年）

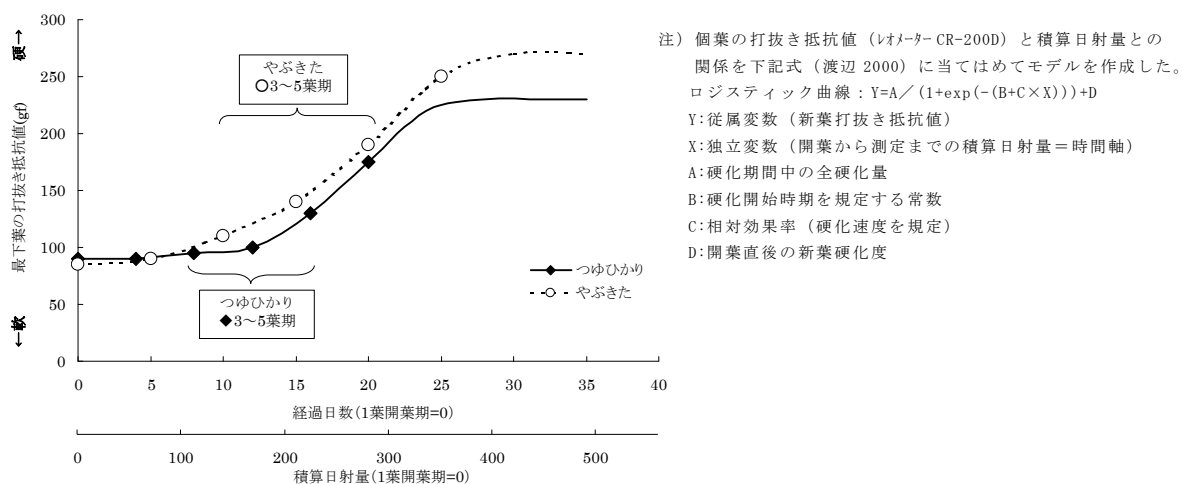


図2 「つゆひかり」の新芽硬化モデル（「やぶきた」との比較）

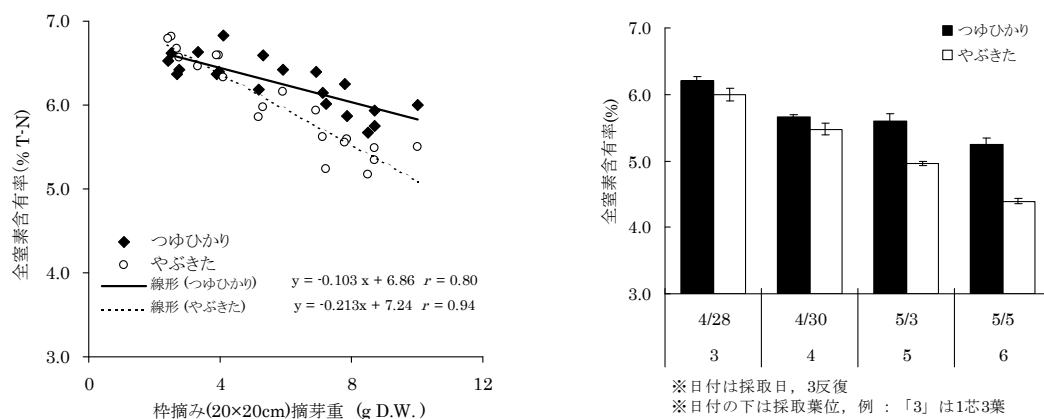


図3 「つゆひかり」と「やぶきた」の一番茶新芽の全室素含有率の違い
（左：摘芽重の増加に伴う全室素含有率の減少速度・2011年、右：葉期別全室素含有率・2012年）

[その他]

研究課題名：規模拡大を目的とした茶品種組合せ技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2009～2012年度

研究担当者：鈴木利和、大石哲也